

教育目標		人間性豊かな、たくましく生きるみどりの子の育成						
重点目標		①「確かな学力」を育むために ②「豊かな心」を育むために ③「健やかな体」を育むために ④安全で安心な学校づくり、環境整備 ⑤開かれた学校づくり ⑥教職員の働き方改革について ⑦「生徒指導体制」づくりのために ⑧小中連携の推進						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の確実な定着により自ら学ぶ意欲の向上 授業力の向上と授業改善を目指した授業公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ミニプリントの活用・音読計算・少人数授業を実施し、基礎・基本の定着、学力の向上を図る。 授業公開・事後研究会を年間7回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の力をつけることにより、授業に取り組む姿勢が向上する。 授業公開・事後研究会を行い、どの子もわかる授業づくりについて職員間で話し合い、児童アンケートにおいて「授業は分かりやすい」の回答が90%以上をめざす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ミニプリントや復習プリントを活用し、算数の基礎基本の力をつけることができた。しかし、学習した後、期間が空くと忘れてしまうことも多く、定着が難しいところも見られた。 児童アンケート「授業はわかりやすく楽しいですか。」の回答が90.2%、保護者アンケート「学校で学習したことを理解していますか」の回答が90.9%であった。職員全体が研究テーマの共通理解を図り、研究に取り組んだ成果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ミニプリントや復習プリントの活用・音読計算・少人数授業を実施する。繰り返し学習し、学習内容を定着させられるように、実態に応じた問題を用意し、取り組ませたい。 コロナ対策をしながらの授業のため、ペアやグループ学習に制限があるが、考える楽しさを大切に授業づくり、きめ細やかな支援のあり方を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊丹市は、学力の向上を第一の課題と考えている。成果を、保護者や地域に見えるようにしてほしい。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力の育成を図り達成感を味わい粘り強く学習できる力の育成 読書活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図に気付いたことを書き込ませたり、相手に伝わる言葉で自分の考えを書かせたりし、友だちと考えを伝え合い、学び合える場の設定をする。 始業前の朝学習として、読書及び言語活動の時間を週1回（15分程度）設ける。読書記録カードに記録する。 4年生以上は、読んだ本のページ数を読書記録カードに記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに自分の考えを書こうとする。 発表の内容に広がりや深まりが見られる。 週15分以上読書をし、読書の楽しさを味わう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じて、自分の考えを書くことができていた。友だちの考えを聞き、自分の考えをより深めることができる児童が多く見られた。 アンケートの評価項目を変更したこともあり、前年度よりも評価は上がっている。しかし、今年度はコロナもあり、学校図書館の利用制限や借りた本の家庭への持ち帰り制限があった。そのため家庭での読書が難しいこともあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、絵や図に気付いたことを書き込ませたり、相手に伝わる言葉で自分の考えを書かせたりし、友だちと考えを伝え合い、学び合える場の設定をする。 引き続き、朝学習の時間に読書を行い読書時間の確保をする。家庭での読書の習慣が定着するよう、図書便りなどを通して呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、読書の課題が挙がっているが、緑小だけの課題ののだろうか。どのような取り組みをすれば読書量が増えるのか、具体的な手立てを模索し、実践につなげてほしい。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 共に学び合う楽しさを感じさせる授業による学習意欲の向上 どの児童もわかる授業の創造 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを出し合う活動を、授業に取り入れる。 課題を工夫したり、具体物を操作したり、表現方法を工夫したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなの中で意見を出し合い、話し合えるようになる。 授業後の児童の振り返りが単元のねらいに沿い、次時の意欲につながるものになっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が考えを出し合う活動に、スムーズに取り組んでいた。意見を出し合う中で、話し合いを深めることができていた。 児童が意欲的に取り組めるような課題を設定することができた。児童の振り返りを、授業で学んだこと、めあてが達成できたか等を意識して書かせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、話し合い活動の効果的な取り入れ方を考える。 考える楽しさを大切にする授業づくりを進め、学びを深められるような手立てを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上には意欲が欠かせない。自ら学ぼうとする子どもを育ててほしい。
豊かな人間関係作り	命を大切に、思いやりに満ちた子の育成及び、児童の問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や人権の授業等を通じて、命やお互いを大切にすることの育成を行う。 事例に応じ、職員全体で共通理解し、対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、人権の授業後の感想で、自分を大切にしたり、相手の心情を考えたりする気持ちの深まりが見られる。 児童の実態を話し合う場を月1回以上設定する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて、「自分を大切にしたり、相手の気持ちを考えて行動している」と回答した児童の割合は前年度から3.9%上がっている。しかし、保護者アンケートの「家庭では思いやりや命の大切さについて話題にしていますか」については、前年度と比較すると0.6%下がっている。 自尊感情を高める教育活動の推進については、今後行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感、自己有用感を高める教育活動の推進を引き続き行っていく。 どうとくノートを活用し、道徳教育の必要性を保護者に啓発するとともに、学校と家庭の協力体制を進めていく。 教師自身も、リフレーミング練習（肯定的な言葉かけ）をしていき、児童の見本となっていくように心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳心に関するこの項目は、保護者アンケートでは0.6%下がっているものの、児童アンケートでは3.9%、0.3%上がっている。学校教育における取組は成果が上がったといえるが、保護者への啓発も進めてもらいたい。 	
	基本的な生活習慣の定着（生活指導の充実）	<ul style="list-style-type: none"> みどりっ子のきまりや緑小しぐさ「あろは」の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> きまりを守り、児童アンケートにおいて、「緑小しぐさ「あろは」について知っている」と回答した割合が90%以上になる。 緑小しぐさ「あろは」を意識して行動し、安全に生活できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「緑小しぐさ「あろは」について知っている」と回答した割合は98.1%で、前年度より0.3%上がった。周知に関して高い割合を維持できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下の歩行など、集団生活のきまりをなぜ守らないといけないのかを児童会活動や道徳の時間等を通して考えさせる。階段に通行のきまりの掲示物を設置した。児童も意識することができていている。 全職員が共通理解を行い、継続して啓発と指導を続けていく。 			
豊か	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回、アンケート調査を実施し、教育相談を行う期間をもうけ、実態調査を行う。（予定） 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を出し合い、検討する機会を大切にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果でのいじめ認知件数は第1回が31件、第2回が53件だった。この結果に基づき、いじめ対策推進委員会を開き、対応・対策について話し合い、教育相談・指導を行った結果、第1回は継続支援が4件で第2回は継続支援が6件だった。今後も児童の実態を出し合い、検討するとともに、日常的に全職員が見守っていく意識を持ち、学級経営に臨むことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 月例で行っている相談部の定例会での児童の様子との情報交換を、今後も継続していく。 児童との関わりや、見つけ方などを全職員でさらに研修していく必要がある。 いじめへの対応を全職員で組織として取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもはほめて育てる必要がある。子ども理解のために、どのような研修会を行っているのか、明確にできれば、学校運営協議会としても、具体的支援ができる。 	

な心・健やかな体					<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じていじめ対策推進委員会を設けた。特に、事例発生時は早急にいじめ対策委員会と連携し、早期対応を徹底し、解消・解決を図る事の必要性を感じた。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 健康な体づくり・体力向上 望ましい食習慣の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察を毎日行う。 保健だよりを用いて、保健指導を行う。 全員遊び（外で遊ぶ）の日をクラスで1週間に1回程度設定する。 業間休みに多くの児童が外に出られるように、用具の充実を図る。 体育委員会を通じて、外遊びを児童に促す。 栄養教諭による「食の指導」を実施する。 食育だより（一言コメント）を掲示するなどして、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察を一日1回行う。 保健だよりを用いて、保健指導を月1回実施する。また、感染症の予防についても知らせる。 全員遊びに進んで参加する児童を増やす。 「休み時間、外で遊ぶ」とアンケートに答える児童が75%になる。 季節の食材を知ったり、栄養について考えたりする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察表により毎朝健康観察を行った。 保健だより等で健康についての情報提供や啓発を行った。感染症対策やコロナ禍での熱中症予防について注意喚起を行った。児童の様々な健康課題や感染症対策について、全職員の共通理解を図り、指導していく必要がある。 外遊びの紹介ビデオでは、やってみようという声を聞いている。しかし実際に子どもたちが外に出られるような機会を作るまでには、いかなかった。 カリキュラムの見直しを行い、例年していなかった運動も取り入れたため、ふさわしい教具がない場合もあった。 例年行われている栄養教諭による「食の指導」はコロナ感染予防のため中止となった。その代わりに、今年度は紙面にて用意をしてもらった。 委員会の活動では、一言コメントの内容をポスターにした。各フロアの掲示板に掲示し、啓発した。また、食器などの返し方を中心に全校生に見直してもらいたいところを話し合い、動画を作成した。 給食委員会の活動で一言コメントの内容を全校生に広めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解のもと、保健だよりを活用し、学級指導を随時していく。 全校集会でビデオで遊び方の紹介などに取り組んだが、アンケートではポイントが下がってしまった。体育委員会での催しなどで子どもたちが外に出るような機会を作っていく必要がある。 備品に関しては学年末にアンケートを実施。各学年の運動に合うように、すこしずつ購入を進める。 季節の食材や栄養、給食に興味をもってもらえるように、給食委員会を中心に全校生に引き続き伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 外で遊ぶ子どもが減っている。職員アンケートの外遊びは88.2%だが、児童は75.8%となっている。教員の捉えと、子どもの実態がかけ離れている。外遊びを大切にすれば、子どももしっかり伝える指導が大切である。 放課後、外で遊ぶ子どもが減っているのは、ゲームのせいなのか。
開かれ信頼される学校園	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の積極的な発信 安全・安心な学校作り 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより・学年だよりを月1回以上発行する。 学校ホームページを月10回以上更新することによって、学校情報を積極的に発信する。 安全点検を月1回実施し、学校施設や設備の安全・美化に努める。 火災、防犯、地震の避難訓練を学期に1回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて「学校だより・学年だより・学校ホームページなどにより、学校の様子を知ることができる」と回答した割合が90%以上になる。 安全点検の結果、問題のない場所が増える。 さまざま場面の避難訓練を計画することで、児童がより迅速かつ安全に避難できる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、93%以上が肯定的評価を選択している。ホームページにおいても平均して月10回の更新をすることができた。 安全点検の結果、学校施設の安全・美化に努め、不良箇所の修繕や報告を行うことができた。 今年度は、防犯と地震の避難訓練を行った。避難経路や避難の仕方について考えることができた。 保護者アンケートでは「お子さんにもしもの時の身の守り方について話していますか。」の項目で80.6%と低く、保護者への啓発の必要性を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きホームページの更新回数を充実させることで、お知らせや日常の様子など、学校の情報を積極的に発信していく。また、タブレットが児童一人に一台配布されることから、使い方の定着を図り、学習での活用の仕方について積極的に研修を行うことで、ICT教育の充実に向けて取り組んでいきたい。 児童がいざというときに自分で身を守るように、避難訓練の仕方や形態について、見直し、改善を行っていく。また、安全に関する研修を全職員で行っていくなど、児童と共に教職員の危機管理意識の向上に努めていきたい。そして、こども防災手帳をもとに学校でも継続的に指導し、保護者にも啓発できるように取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級通信など、コロナの時だからこそ、学校の様子を詳しく知らせる術を充実する必要がある。
学校関係者評価の総括							
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの関係で、学校行事や学年行事などを行うのも、ままならない一年であったと思う。その中において、学校は、最大限できることに取り組み、子どもたちの教育に取り組んでいただいた。学校運営協議会としても、学校の現状を踏まえ、支援体制の強化を図っていきたい。 前年度のいじめ事案においては、学校の初期対応のまずさがあり、対応に苦慮することとなった経緯がある。その反省の基、今年度の新たな事案においては、早い動きが見られ、対応できていることが伺える。 							
次年度に向けた重点的な改善点							
<ul style="list-style-type: none"> 教育長は、本市の学校において、最も力を入れたいのが学力の向上であると認識している。緑丘小学校においても、基礎学力の定着・学習意欲の向上を土台とし、今の子どもたちの学力の課題をきっちりと捉えて、その克服に向けて取り組みを進めてもらいたい。 子どもたちには、「人間性教育」の育成に力を注いでいただきたい。ルール（規則）で締め付けるのではなく、「モラル」「マナー」の教育の充実が大切であると考えている。緑丘小学校には、「緑小しぐさ あ・ろ・は」という、豊かな心を育てるための標語がある。日々の地道な積み重ねを通して、社会で通用する人間の育成に努めてもらいたい。 							